

第64回 生体制御学セミナー

動物の形態進化に新しい遺伝子は 必要なかったのか —超マイナー軟体動物の研究から—

和田 洋 先生

筑波大学・生命環境系・生物科学専攻・教授

日時:2016年9月7日(水)14:00~15:30

場所:理学部・1番教室

講演内容

我々はゲノム情報から軟体動物のホメオボックス遺伝子を同定していく過程で、軟体動物を含む冠輪動物にしか見られない一群のホメオボックス遺伝子を見出した。それらの遺伝子は、らせん卵割時に発現しており、らせん卵割の成立と深く関わっていることがわかってきた。従来、多細胞動物は、その多様な形態は共通のツールキット遺伝子によって発生が制御されており、多様性は共通のツールキット遺伝子の発現様式の違いによってもたらされたと考えられてきた。今回の超マイナー動物の研究成果は、その常識に一石を投じ、新規遺伝子の獲得によりユニークな発生パターンが確立したことを示す。

なお、本セミナーは理工学研究科博士前期課程の講義「生体制御学特論2」については、その一部として開催されます（学部生は自由参加ですが、奮ってご参加ください）。

問い合わせ先:弥益（内）4349、kyamasu@mail.saitama-u.ac.jp